

# 共同利用・共同研究成果発表会

日時：平成 29 年 2 月 27 日 (月) 12:30 ~ 18:30

平成 29 年 2 月 28 日 (火) 9:10 ~ 12:30

会場：高知大学 海洋コア総合研究センター セミナー室

海洋コア総合研究センターは、海洋コアの総合的な解析を通じ、地球環境変動の要因の解明や海洋底資源の基礎研究を行うことを目的として設立された共同利用研究施設です。この成果発表会は、広く全国の皆様に今年度の研究成果をご紹介します。

2月27日(月)

12:30-12:35

開会挨拶

- 高知大学 海洋コア総合研究センター長 徳山 英一
- 共同利用・共同研究拠点課題選定委員会委員長  
国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質情報研究部門 首席研究員 池原 研

12:35-14:05 (座長：池原 実)

- O-01 「西オーストラリア・ビルバラにおける32億年前の重晶石および黄鉄鉱硫黄同位体不均質」 三木 翼 (九州大学)
- O-02 「ガーナ・ビリミアン帯ケープスリーポイント地域に産する火山砕屑岩層序の堆積場と堆積年代の推定」 吉丸 慧 (九州大学)
- O-03 「カナダ・フリンフロン・ケープスミスにおける18-19億年前の堆積層：原生代中期の大陸分裂時の海底環境」 清川 昌一 (九州大学)
- O-04 「Canada Flin Flon帯及びCape Smith帯に保存された1.9Gaの海底堆積岩の層序復元と岩石特徴」 元村 健人 (九州大学)
- O-05 「東エジプトEl Dabbah地域の層序と堆積場の復元：新原生代の縞状鉄鉱層について」 鈴木 大志 (九州大学)
- O-06 「鹿児島県薩摩硫黄島長浜湾における水酸化鉄の堆積作用：コロイド粒子の沈殿機構」 原田 拓人 (九州大学)

14:20-15:35 (座長：浦本 豪一郎)

- O-07 「2011年東北地方太平洋沖地震時の東京湾岸埋立地における液状化-流動化層準-市川市行徳・船橋市日の出の調査から」 風岡 修 (千葉県環境研究センター)
- O-08 「生物攪拌によって破壊される津波堆積物」 清家 弘治 (東京大学)
- O-09 「沈み込み帯周辺での堆積物の圧密による微細組織の変化」 藏永 萌 (山口大学)
- O-10 「炭質物の熱熱成反応から読み解く過去のプレート沈み込み断層の滑り挙動」 金木 俊也 (大阪大学)
- O-11 「沈み込み帯地震発生領域での亀裂発生に必要な流体量の検討：延岡衝上断層周辺の例」 大坪 誠 (産業技術総合研究所)

15:50-17:05 (座長：氏家 由利香)

- O-12 「 Gondwana大陸北部における中生代初期の風化環境」 吉田 孝紀 (信州大学)
- O-13 「中部中新統別所層に産する炭酸塩ノジュールの成因」 石田 朋志 (信州大学)
- O-14 「日本海における後期鮮新世の定量的中層水温変動」 山田 桂 (信州大学)
- O-15 「貝形虫Bicornucythere bisanensis殻の炭素・酸素同位体比を用いた地中海の冬季古環境復元」 黒木 健太郎 (信州大学)
- O-16 「北海道大沼の年縞湖底堆積物から探る過去数百年間におけるアジア中緯度域の気候変動と太陽活動との関係性(予察)」 長谷川 精 (名古屋大学)

17:05-18:30 ポスター発表：概要紹介、引き続きコアタイム (座長：山口 龍彦)

- P-01 「One year experience in the field of paleomagnetic/rock magnetic research」 Balázs Bradák (神戸大学)
- P-02 「白亜紀阿武隈花崗岩から分離した鉄単結晶の古地磁気・岩石磁気測定」 加藤 千恵 (東京工業大学)
- P-03 「中央インド洋海嶺で採取した多様な海洋底蛇紋岩の磁性」 藤井 昌和 (国立極地研究所/総合研究大学院大学)
- P-04 「考古学試料を用いた古地磁気・岩石磁気(2016年度測定まとめ)」 畠山 唯達 (岡山理科大学)
- P-05 「古墳~鎌倉時代を網羅する強度標準曲線の構築に向けて-陶器遺跡群の研究：第3歩目-」 北原 優 (九州大学)
- P-06 「エチオピア洪水玄武岩を対象にした約30Maの地球磁場変動の解析」 石川 尚人 (京都大学)
- P-07 「静岡県御前崎市に露出する相良層群の地質学的・古地磁気学的研究」 望月 健太 (山口大学)
- P-08 「表層型ガスハイドレート賦存域、日本海(隠岐周辺、上越沖)堆積物の岩石磁気学的特徴」 下野 貴也 (明治大学)
- P-09 「北大西洋海底掘削コア試料を用いたMIS104における氷床崩壊に伴った深層流の変動」 楳尾 雅人 (九州大学)
- P-10 「Monitoring of the 2011 Tohoku tsunami deposits by geochemical and rock magnetic analyses in Sendai bay sediments」 川村 紀子 (海上保安大学校)
- P-11 「地震性泥質タービタイトの堆積構造及び化学組成の理解」 奥津 なつみ (東京大学)
- P-12 「高知大学海洋コア総合研究センターの波長分散型蛍光X線分析装置の主要元素の分析精度の評価」 山口 龍彦 (高知大学)
- P-13 「ITRAXを用いた堆積物中の主要元素・微量元素の定量分析の可能性」 三武 司 (東京大学)
- P-14 「 $^{210}\text{Pb}/^{226}\text{Ra}$ ,  $^{228}\text{Th}/^{228}\text{Ra}$ , ESR法による伊豆・小笠原弧に産する海底熱水性重晶石の年代測定」 藤原 泰誠 (岡山理科大学)
- P-15 「奈良県入之波温泉に発達する炭酸塩堆積物の地球化学的検討」 堀 真子 (大阪教育大学)
- P-16 「深海におけるタービタイトと半遠洋性泥の境界問題」 森王 祐至 (山口大学)
- P-17 「琉球海溝域堆積物の詳細分析による堆積機構と給源の推定」 池原 研 (産業技術総合研究所)
- P-18 「難透水層中の流体の通過部分」 八武崎 寿史 (千葉県環境研究センター)
- P-19 「ガーナ・ビリミアン帯ケープスリーポイントにおける陸上掘削について;GHBコアの詳細な岩相と層序」 坂井 志緒乃 (九州大学)
- P-20 「ベトナム北部ハーザン省のシーファイ地域に分布する上部デボン系トクタット層のケルワッサー事変」 高嶋 礼詩 (東北大学)
- P-21 「現生トカゲ類の眼球における軟組織と硬組織の相関関係-古脊椎動物学への応用に向けて-」 山下 桃 (東京大学)
- P-22 「深海冷湧水系の地質学的研究」 石井 輝秋 (静岡大学)

2月28日(火)

9:10-10:40 (座長：山本 裕二)

- O-17 「IODP Exp.370 掘削試料の古地磁気による定方位付け-室戸沖3次元応力測定を目指して」 杉本 達洋 (京都大学)
- O-18 「陸域に分布する琉球層群の還元化学消磁を用いた磁気層序」 穴井 千里 (熊本大学)
- O-19 「Rock-magnetic properties of single zircon crystals sampled from the Yangtze River and the Mississippi River」 佐藤 雅彦 (産業技術総合研究所)
- O-20 「赤色粘土中の生物源マグネタイトの低温酸化」 山崎 俊嗣 (東京大学)
- O-21 「千葉セクションに記録された松山-ブルン地磁気逆転境界における地磁気強度変化」 岡田 誠 (茨城大学)
- O-22 「琵琶湖堆積物による地磁気永年変化復元の試み：cmスケールからmmスケールに向けて」 小田 啓邦 (産業技術総合研究所)

10:55-12:25 (座長：岩井 雅夫)

- O-23 「更新世最初期における1000年-100年スケールの気候変化」 兵頭 政幸 (神戸大学)
- O-24 「中部日本犬山地域に分布する美濃帯上部三畳系~ジュラ系層状チャートを用いた化石・古地磁気統合層序の確立」 山下 大輔 (熊本大学)
- O-25 「ITRAXを用いた前期中新世~鮮新世における日本海堆積物元素組成の変動」 黒川 駿介 (東京大学)
- O-26 「ITRAXを用いた堆積物中の臭素(Br)の定量と、海洋起源有機物プロキシとしての実現可能性」 関 有沙 (東京大学)
- O-27 「アラスカ半島沖海底コアにおけるDawson tephraの発見」 青木 かつり (立正大学)
- O-28 「アパタイト微量元素組成に基づく新しいテフクロロジー」 高嶋 礼詩 (東北大学)

12:25-12:30

閉会挨拶

高知大学 海洋コア総合研究センター 副センター長 小玉 一人

